

令和 7 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立野里幼稚園

令和 8 年 3 月

(様式例 1)

大阪市立野里幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・本園の幼児は、兄弟姉妹で在籍していたり、兄、姉や保護者が野里幼稚園出身であったりする家庭が多い。また、比較的安定した家庭で育ち落ち着いている幼児が多い。
- ・広い園庭で伸び伸びと体を動かしたり、動植物と関わったりして、ゆったりと遊んでいる。
- ・配慮を要する幼児の在籍が年々増加している。本年度は全園児の 4 分の 1 近くの幼児が配慮を必要としており、教職員の負担が増している。
- ・体力向上の取組については、個人差が見られる。特に、投げる力、手や指先をうまく使うことができない幼児が多い。一人一人が楽しみながら体を動かす機会を意図的にもち、幼児の実態に応じた保育実践が必要である。
- ・令和 5 年度 5 月のコロナ 5 類移行により、地域・学校・家庭との交流を再開することができた。様々な人や環境と関わる機会をもてるよう、取組内容を工夫していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で 80% 以上にする。
- ・お子さんは、防災・安全などに対する意識をもち、自分で自分の身を守ろうとする気持ちが育っていますか。
 - ・お子さんは、友達のよいところに気付いていると思いますか。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で 80% 以上にする。
- ・お子さんは、自分で好きな遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいますか。
 - ・お子さんは、様々な環境に自ら関わって遊ぶことを楽しんでいますか。
 - ・お子さんは、基本的生活習慣が身についてきていますか。

【学びを支える教育環境の充実】

- 本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で 80% 以上にする。
- ・お子さんは、喜んで幼稚園に登園していますか。
 - ・お子さんは、絵本やお話を楽しんでいますか。
 - ・お子さんは、様々な人と関わることを楽しんでいますか。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。

- ・お子さんは、防災・安全などに対する意識をもち、自分で自分の身を守ろうとする気持ちが育っていますか。
- ・お子さんは、友達のよいところに気付いていると思いますか。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。

- ・お子さんは、自分で好きな遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいますか。
- ・お子さんは、様々な環境に自ら関わって遊ぶことを楽しんでいますか。
- ・お子さんは、基本的生活習慣が身についてきていますか。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。

- ・お子さんは、喜んで幼稚園に登園していますか。
- ・お子さんは、絵本やお話を楽しんでいますか。
- ・お子さんは、様々な人と関わることを楽しんでいますか。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・安全計画及び避難訓練など、年間計画に沿って実施した。今年度は特に状況に応じた適切な避難訓練方法を自ら考え行動できる力を育めるように努めた。区役所と連携をして、親子での防災指導を取り入れたことで、幼児が危機管理意識をもって、行動する力や安全意識の向上にもつながった。
- ・教職員間で幼児の情報を共有し、一人一人の幼児の実態に応じた支援について話し合う機会を多くもったことで、より幼児にあった支援に努めることができた。
- ・行事や遊びの中で多様な学びの場を通して、幼児が様々な体験や人との関わりができるよう環境を工夫してきたことで、友達関係の中で自他を思いやる心も育まれるようになった。
- ・就学前教育カリキュラムを活用し、自園の幼児の実態に合わせた環境づくりや教職員で共通理解を図りながら、実践的な保育をすすめてきたことで、保育の充実につながった。
- ・幼児が主体的に遊んだり、生き生きと活動したりしている姿をホームページに掲載した。また、今年度は「自然との触れ合い」や「環境を生かした遊び」の場面を丁寧に掲載したことで、園で大切にしている教育方針や日々の保育の様子をより多くの方に知っていただくことにつながった。

(様式例 2)

大阪市立野里幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 学校の年度目標 ○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。 ・お子さんは、防災・安全などに対する意識をもち、自分で自分の身を守ろうとする気持ちが育っていますか。 ・お子さんは、友達のよいところに気付いていると思いますか。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 防災、安全教育を推進し、幼児が自分自身で身を守ろうとする気持ちを育む。 指標 安全計画及び避難訓練の年間計画を立て、月 1 回以上、避難訓練や安全指導などを行い、内容を保護者にも啓発する。	A
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 インクルーシブ教育を推進し、幼児が互いのよさに気付くことができるようにする。 指標 園内委員会を学期に 2 回実施し、配慮を要する幼児の支援の方法を共通理解する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・安全計画及び避難訓練の年間計画に沿って、火災(4月・5月・9月)と地震(6月・9月・11月・1月・2月)、不審者対応(12月)の避難訓練を実施した。5月と9月、2月の訓練では、幼児引き渡し訓練を同時に行うことで、保護者に緊急時の連絡体制や災害時の避難体制について周知した。11月に、歌島中学校との幼中合同避難訓練を行い、津波警報が発令された場合を想定し、中学生と中学校校舎の3階まで二次避難をした。1月には、歌島小学校との幼小合同避難訓練を行い、高い建物に避難し、静かに放送を聞いて待機する必要性を知らせた。毎回の訓練で、事前・事後指導を継続したことで、年度当初は不安定だった幼児も、状況に応じた避難方法を考え、落ち着いて訓練に参加できるようになってきている。2月には、年間計画の地震を想定した訓練に続き、予告なしの訓練も実施した。幼児や教師は心構えのない状況であったが、落ち着いて放送を聞き、速やかに状況を判断して、避難することができた。 ・1学期の終業式では、生活安全指導として、長期休暇中の安全な過ごし方について職員が劇を行った。幼児一人一人が理解を深め、自ら安全に気を付けようとする意識を高めた。これにより、休暇中も安全に過ごそうとする態度につながった。 ・様々な外部機関の協力をいただきながら、安全教育の充実を図った。6月の交通安全指導で

は、西淀川警察署の方から実際の道路標識を用いて園児に指導をしていただいた。9月の火災の避難訓練では、西淀川消防署の方が園児の避難の様子を見守り指導していただくとともに、職員と通報訓練を行った。2学期の始業式では、西淀川区役所の方と事前に打ち合わせを重ね、防災についての話をしていただく機会を設けた。親子で紙芝居「じしんだ」を見たり、非常用の簡易テントや簡易ベッドに実際に触れたりする体験をした。保護者には、非常用持ち出し袋の内容や簡易トイレの使用方法、家庭での備えの大切さについて伝え、防災への意識向上につなげた。11月には、近隣の江崎記念館を訪れ、様々な種類の非常食についての説明を聞いたり見せていただいたりしたことで、幼児の関心を高めることができた。

取組内容②

- ・年度当初に園内委員会を実施し、各クラスで支援の必要な幼児について話し合い、関わり方について共通理解した。また、担任だけでなく全職員で幼児と保護者を見守り、緊急時には、全職員で共有して対応していくようにした。
- ・6月・12月に園内研修支援、7月には要請で教育指導員に保育を見ていただき、幼児理解や指導のあり方を学んだ。
- ・特別支援教育コーディネーター研修、特支C0連絡協議会、特別支援担当者研修、西淀川区障がい地域自立支援協議会（こども部会）に参加し、幼児への関わり方や援助の仕方を学ぶよう努めている。
- ・1学期から、集会や誕生会で、4・5歳児の遊びの時には、律動や仲良し遊び、大型積み木、迷路遊びなどを一緒に遊んできた。2学期に入り、運動会に向けて一緒に体操やダンスをしたり、互いの競技や演技を見合ったりした。てんらんかい前からは、4歳児の保育室を2階に移動したことで、より4・5歳児の関わりが増え親しみ、互いを認め合うようになってきた。クラスでは、苦手意識をもつ遊びのある幼児が、どうしたら楽しく遊べるか、遊びの中でのトラブルがあった時どうしたらいいのかなどを話し合う時間を設けた。幼児なりに相手の気持ちになって考えながら、いろいろな意見が出た。日々、遊びの振り返りを話し合ってきたことで、しだいに幼児は互いの思いや考えに気付くことができるようになってきた。

次年度への改善点

- ①
 - ・今後大規模災害が発生する可能性が高いことから、日常生活の中で安全な行動の習慣が身に付くように指導することで、幼児が日頃から危機管理意識をもって行動する力を育む。
 - ・状況に応じた適切な避難方法を自ら考え行動できる力を育てるため、地震以外にもさまざまな状況を想定した予告なしの避難訓練を計画的に実施していく。
- ②
 - ・一人一人の幼児にあった支援を話し合い（家庭環境も含めて）、より幼児にあった支援に努めていくようにする。今後も、全職員で幼児の情報を共有していき、対応の仕方を考えていくようにする。
 - ・遊びや行事の中で多様な学びの場を工夫し、幼児たちがいろいろな体験や人との関わりを通して、他者の良さに気付き、自他を思いやる心が育まれるようにしていく。

大阪市立野里幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。 ・お子さんは、自分で好きな遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいますか。 ・お子さんは、様々な環境に自ら関わって遊ぶことを楽しんでいますか。 ・お子さんは、基本的生活習慣が身についてきていますか。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムに基づいた教育を推進し、保育内容の充実を図る。 指標 ・日々の保育案に就学前教育カリキュラムの内容を取り入れる。 ・本園の教育課程の見直しを学期に 1 回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 様々な環境に自ら関わり、楽しさや喜びを感じる幼児を育む。 指標 ・幼児の実態の記録や研究について、教職員で話し合い、分析する機会を年 6 回以上もつ。 ・幼児が意欲的に遊べるよう、園内外での活動内容や環境構成を工夫する。	B
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 基本的生活習慣が身につくよう、幼児の発達段階に応じた保健指導を行う。 指標 学期に 1 回、基本的生活習慣を身につけるためのがんばり週間を設け、規則正しい生活習慣を身につけられるように家庭と連携して取り組む。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・日案や週案を立案する際に就学前教育カリキュラムを参考にし、幼児の発達やねらい、教育的意図をもった働きかけを把握した上で、クラスの実態を探りながら様々な環境を構成して学期に応じたねらいを設定した。そうすることで年度当初不安だった幼児も少しずつ落ち着いて遊びを楽しめるようになった。 ・学期に 1 度、2 学年で教育課程の見直しを行った。ほかの学年と話し合う機会をもったことで共通理解を図り、次学期の見通しをもつことができた。 取組内容② ・1 学期に 2 回、研究主題「身近な自然に興味や関心をもち、関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む」をねらいとした保育を記録し、身近な自然に触れて遊ぶ姿について教職員で話し合う機会をもったことで、教育的意図をもった働きかけや、幼児が意欲的に遊べるような環境構成について学び、保育実践することにつながった。	

- ・年度当初から小麦粉粘土や片栗粉、指絵具などの感触遊びをできる環境を整え、遊びを積み重ねてきたことで、安心して遊ぶ姿や、気持ちを教師や友達に言葉で伝える姿が増えた。
- ・4月の緑陰道路、5月の藤田邸跡公園で、身近な自然に触れ、タンポポの綿毛やシロツメクサ、ヨモギなどを見つけて喜んだ。意欲的に遊べるよう、収穫したヨモギと、小麦粉を使用した団子づくりを行い、「もっと濃い緑色にしたい!」と工夫しながら遊ぶ姿が見られた。
- ・園庭や畑では年度当初に幼児が野菜の札づくりをして身近な自然に興味をもてるよう働きかけ、その後のタマネギ・ジャガイモ・サツマイモ・ダイコンなどの栽培、収穫を行ったことで、生長への気付きや収穫への期待が高まった。
- ・園庭の葉を採取して水に浮かべ、おはじきを乗せて遊ぶ中で、大きさや形、浮き方の違いに気付き、友達と共有した。
- ・幼児が収穫したジャガイモや、保育室で飼育したダンゴムシなど、幼児の興味に沿えるよう土の中をイメージした段ボール迷路を用意した。ジャガイモやダンゴムシになりきったり、自分たちで自然クイズをつくって貼ったりして遊んだことで、自然についてより興味をもつことにつながった。
- ・大阪・関西万博に園外保育に出かけた。事前に教師のつくった動画を見たり、クイズをしたりして、幼児の期待が高まるようにした。園外保育での体験を生かして、親しみをもちながら環境を整えたことで、その後の戸外遊びや運動会などで意欲的に遊ぶ幼児の姿につながった。
- ・てんらんかいに向けて、畑で育てたイモヅルや木を組み合わせ、大阪城公園の園外保育で自分たちで拾ったドングリやマツボックリなどを飾り、自然物を取り入れながら製作を楽しむことができた。

取組内容③

- ・1学期は6月に1か月間「歯みがきががんばるDAY」、7月に6日間、9月に8日間「はよねるDAY」を実施した。6月、歯と口の健康週間に合わせて実施した「歯みがきががんばるDAY」では、いつもより丁寧に歯をみがくようにブラッシングの方法を伝え、5歳児には第一大臼歯のみがき方など保健指導した。11月にも「いい歯の日」に合わせて「歯みがきががんばるDAY」を実施した。今年度は、全日本学校歯科保健優良校表彰において「日本学校歯科医会会長賞」を受賞することができた。年間を通して歯に関心をもたせながら、担任と連携し継続した指導を続けている。1月～2月にかけて13日間実施した「はよねるDAY」では、今年度の幼稚園での記憶に残る出来事をカード化したものを1日1枚配布し、図鑑を完成させる取り組みを行った。年長児にはレアカードを用意したこともあり、楽しみながら期待感を持ち、意欲的に取り組む姿が見られた。

次年度への改善点

- ① ・引き続き、日案や週案を立てる際に就学前教育カリキュラムを活用し、自園の幼児の実態に合わせたより実践的な保育を計画する。教育課程の方も1学期に1回見直す機会をつくる。
・幼稚園での教育について周知できるように、月ごとのねらいや幼児の姿を保護者に具体的に伝える。
- ② ・今後も幼児が自然に興味をもち、その姿が好奇心や探究心につながっていくよう、幼児の生活や実態に応じた保育内容となるよう教職員間で連携を図りながら進めていきたい。
- ③ ・早寝、早起きの取り組み期間後も遅刻する幼児が減少するよう、こまめな声掛けや引き続き家庭と連携をしていきたい。

(様式例 2)

大阪市立野里幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 ○本園のアンケート調査で次の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する保護者の割合を、全学年で80%以上にする。 ・お子さんは、喜んで幼稚園に登園していますか。 ・お子さんは、絵本やお話を楽しんでいますか。 ・お子さんは、様々な人と関わることを楽しんでいますか。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 園内研究保育や園内外での教員研修に参加・実施し、教員の資質向上を図る。 指標 園内研究保育や園内外での教員研修に年 3 回以上参加・実施し、教員が互いに学び合う機会をもつ。	B
取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 家庭と連携しながら、幼児が様々な絵本に親しみをもてるようにする。 指標 ・月 3 回、幼児が自分で絵本を選ぶ絵本貸し出しを行う。 ・月 1 回、絵本室でゆっくりと絵本を読んで過ごせる時間を設ける。	B
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学校・地域・家庭などと連携した様々な取組の推進。 指標 地域や学校、異文化など様々な交流活動を行い、取組内容を家庭や地域に月 1 回以上発信する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・教員研修を受講し、他の教職員と情報共有をすることで、教員の資質向上に努めた。 ・6月に、しゃぼん玉を題材にした園内研究会を実施した。7月に、研究主題「身近な自然に興味や関心をもち、関わって遊ぶ中で好奇心や探究心を育む」に基づき、教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成について研究し、保育を行った。どちらも教育指導員に来園していただき、指導助言をいただいた。保育を振り返り、幼児の姿や課題について討議、分析することで、今後の見通しを共有し、教員の指導力向上につなげる機会となった。のぞとまつりに遊びをつなげたことで、これまでの遊びの流れや、遊びの内容を保護者に周知する機会となった。 ・園内研究保育以外にも、様々な立場の教職員が、保育に携わり、誕生会や運動会、生活発表会などの行事を担当したり、集会を行ったりした。教材研究に努め、教職員同士で話し合うことで、互いに学び合い、刺激を受け合う良い機会となった。	

取組内容②

- ・月3回以上、絵本室で好きな絵本を借りる絵本貸し出しや、月1回親子で絵本を借りる親子絵本貸し出しを行った。絵本を通して親子でのふれあいの時間を家庭でもつくってもらえるように、絵本貸し出しカードを用意し、家庭での様子を記入してもらうようにした。
- ・5月、5歳児が西淀川図書館に行き、1人1冊好きな絵本を借りて家庭に持ち帰って読む経験をした。また、大型絵本を借りて幼稚園に持ち帰ったことで、4歳児も大型絵本に親しむことができた。
- ・中央図書館からのさまざまなジャンルの絵本の配本を活用し、3学期の始業式終了後に遊戯室で幼稚園図書館を実施した。親子でゆったりとした雰囲気の中で好きな絵本を選び、読み合う時間を設けた。保護者に読み聞かせをしてもらうことで、幼児たちは物語の世界を楽しんだ。また、絵本を通して親子の会話が広がり、心の触れ合いを深める機会となった。

取組内容③

○家庭との連携

- ・保育参観（4・5月）、ふれあい親子遠足（ボーネルンドプレイヴィル大阪城公園／6月）、歯科講演会（6月）、弁当参観（6月）、プール参観（7月）、のぎとまつり（7月）、運動会（10月）、てんらんかい（12月）、生活発表会（2月）、お別れ会・お楽しみ会（3月）などを実施した。保育参観や行事を通して、園の教育活動への理解を深めることにつなげている。

○地域との連携

- ・サッカー体験（5月）、走り方教室（6月）、クオレ歌島訪問（6月・3月）、リズムコミュニケーション（9月）など、様々な交流や体験活動を行った。クオレ歌島訪問では、6月は年長児のみ、3月は年長児・年少児全員で訪問した。保育の中で親しんでいる歌やダンスを披露すると、笑顔や温かい拍手をいただけたことで、幼児たちも大きな喜びを感じていた。また、職員によるヴァイオリン演奏を行うと、利用者の方も口ずさんだり手拍子をしたりして喜んでいただけた。はじめは緊張していた幼児たちも温かいお声がけに安心し、自分なりに応えようとする姿が見られ、心の交流を感じる機会となった。9月のリズムコミュニケーションでは、外部講師に来園していただき、ピアノのリズムに合わせて身体を動かしたり、マリンバやアコーディオンなど様々な楽器の音色を聴いたり触れたりした。音楽を通して様々な表現の仕方に触れた経験が、その後の表現遊びの中で生かして遊ぶことにつながった。
- ・未就園児園庭開放を月1回実施している。ダンスや、のぎとまつりの遊び、運動会で楽しんだ玉入れ、かけっこなど、季節に応じた在園児の親しんでいる遊びを一緒に行うことで、入園前の保護者に園の雰囲気や遊びの内容を知っていただく機会となっている。

○学校との連携

- ・柏里小学校・御幣島小学校の栄養教諭による栄養指導（11月）、柏里小学校給食試食体験（1月）、歌島中学校2年生との保育実習を通しての交流（1月）など、歌中校区下の小学校・中学校と様々な交流活動に行い、小学校生活への期待や、年上のお兄さん、お姉さんへの憧れの気持ちをもつことにつながった。

○発信の工夫

- ・園生活の様子をより多くの方に知っていただくため、ホームページを活用し、幼児が主体的に遊んだり、生き生きと活動したりしている姿を掲載している。また、今年度の研究主題に関連した「自然との触れ合い」や「環境を生かした遊び」の場面を丁寧に掲載した。園が大切にし

ている教育方針や日々の保育の様子を、保護者や地域の方々に分かりやすく伝えるよう努めている。

次年度への改善点

- ① ・引き続き、計画的に研修に参加し、園内研究会を実施して教員が学び合えるような機会をつくる。
- ② ・計画的に西淀川図書館を利用する機会をつくる。
 - ・絵本室の環境を整え、月1回の親子絵本貸出の機会等も利用しながら、親子でいろいろな絵本に親しめるようにする。
- ③ ・感染症等の影響により実施できなかった交流活動もあるため、様々な交流活動が実施できるよう、関係機関との調整・交渉を進めていくようにする。